



# THE PRESS ザ・プレス 国際高

速報 第26号  
発行  
富山国際大学付属高校 新聞部  
富山市願海寺4-4-4  
E-mail:  
press@tuins-h.ed.jp



## 岩井選手 母校訪問

### 「3年後のパリも狙います」

東京パラリンピックの車いすバスケットボール男子に出場した岩井孝義選手（2015年卒業生）は、日本代表として過去最高となる銀メダル獲得に大きく貢献した。岩井選手は10月20日、本校を訪問し、3年後のパリ大会に向けた抱負や今後の競技普及への思いなど、新聞部のインタビューに答えた。

【柳澤和音実】



銀メダルを手に微笑む岩井選手 図書室

この日は、生徒会副会長の金多恵さん（21H）からの花束贈呈や、梅野同窓会長さんからの記念品贈呈などもあった。帰りは生徒達から大きな拍手で送られ、体育館入り口の木製スロープにサインする一幕もあった。

◇ ◇ ◇  
— 銀メダル獲得、おめでとうございます！ 今大会では、1次リーグから決勝まで7試合に出場したが、大会を終えて今の心境は。

「メダルをとった実感は、まだ微妙です。たくさんの方が声をかけてくださることで、最近実感してきたところです。今は、3年後のパリに向けて練習に取り組んでいます」

— 決勝では、前回大会優勝のアメリカに60-64で競り負け残念だったが、巧みなチェアワークで相手のチャンスを阻んだ。決勝戦を振り返って。

「まず、世界最強のアメリカと戦えたことが光

栄。コートでテンションが上がりました。試合は『ディフェンスで勝つ』ことを常に意識していました。日本のプレーはスピードもシュート力もありました。今までで一番いい試合ができたと思います」

— 大会が終わって富山に帰って、周りの反応は。

「周りの人からよく声をかけられます。テレビなどで見てくれたことが分かってうれしいですね。この前はスロープに行った時、『車いすバスケの岩井選手ですよ』と声をかけられました。家族はおめでとうと言ってくれました。家族に、結果を残して恩返しできたかと考えていたので、銀メダルをとれて良かったです」

— 今後の抱負は。

「3年後のパリパラリンピックまで、一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。この代表メンバーの選考はさらに厳しくなるはずなので、選

ばれるよう継続して練習をしていきます。来年4月までは土台作りをしたり、見直す時間を設けるつもりです」

— SNSで話題になるなど、かなり盛り上がって車いすバスケへの関心が高まっている。今後の普及に向けた思いは。

「まだ障害者スポーツとして認識されていませんが、僕は車いすバスケを障害者スポーツとしてでなく、一つのスポーツとして見てほしいと思っています。見方を変えてもらえるよう何かしらのアクションをしていきたいです。この熱が冷めないように、トークショーなどのイベントに積極的に参加することで、応援し続けてもらえるように励みます」

— 後輩の国際生にメッセージを。

「国際生の皆さん、応援ありがとうございます。車いすバスケを通じて僕が皆さんに伝えたいのは、何に対しても感謝の気持ちを常に持つことです。僕の努力だけではここまで来られていません。周りの方々が支えてくれたおかげです。皆さんも、周りのいろいろな方々に支えてもらっていることに感謝を忘れず、常にあらゆることに感謝の気持ちを持って生活してほしいです」

岩井先輩の今後の活躍に注目しよう！